

廃棄方法

使用済みの注射器は、すべて医療従事者の指示に従って適切に廃棄してください。

使用済みの注射器は、専用廃棄用ボックスに入れる、又は専用廃棄用ボックスが無い場合は、ふたのできる、穴の開かない容器に入れてください（図は一例として、専用廃棄用ボックスを示しています）。



よくある質問

◆＜潰瘍性大腸炎の患者さんへ＞

Q. 1回あたりの投与量に、何本の注射器が必要ですか？

A. 潰瘍性大腸炎の治療では、1回あたりの投与量として、「200mgの注射器1本」又は「100mgの注射器2本」を使用します。
以前の処方と本数が異なる場合や、ご自身の投与量について確認したい場合、又はご不明な点がある場合は、医療従事者にご相談ください。

◇＜クローン病の患者さんへ＞

Q. 1回あたりの投与量に、何本の注射器が必要ですか？

A. クローン病の治療では、1回あたりの投与量として、「200mgの注射器1本と100mgの注射器1本」の、合計2本を使用します。
以前の処方と本数が異なる場合や、ご自身の投与量について確認したい場合、又はご不明な点がある場合は、医療従事者にご相談ください。

Q. 注射器のサイズが異なります。どちらを先に注射したらいいですか？

A. どちらからでも注射できます。1回あたりの投与量（300mg）を投与するために、両方の注射器を注射してください。

＜すべての患者さんへ＞

Q. 薬液の中に気泡があった場合はどうしたらいいですか？

A. 皮下注射では、薬液の中に気泡があっても問題ありません。気泡は人体や投与量には影響ありません。

Q. キャップを外した後、針先から薬液がもれていた場合は、どうしたらいいですか？

A. 針先にしずくがついている程度であれば問題ありません。人体や投与量には影響ありません。針には触らないでください。

Q. 内筒が押し込めない場合はどうしたらいいですか？

A. 内筒が動かなかったり、壊れたりしていたら、
・本剤を使用しないでください。
・針を皮膚から抜いてください。
・新しい注射器を使用してください。

Q. 注射後に少量の薬液が皮膚上にもれていたり出血していたりする場合は、どうしたらいいですか？

A. 問題ありません。カット綿又はガーゼを注射部位にあててください。注射部位をもまないでください。

Q. 注射が完了したことを確認するにはどうしたらいいですか？

A. 注射が完了していれば
・青色の内筒が外筒から透けて見えています。
・灰色のゴムピストンが注射器本体の針の根元まで押し込まれています。

お問合せ先 本剤についてご質問がある場合は：

- 医療従事者にご相談ください。
- 以下までお問い合わせください。
持田製薬株式会社（<https://www.mochida.co.jp/>）
くすり相談窓口
電話：0120-189-722
受付時間：9時00分～17時40分（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）

本剤の情報提供サイト（患者様向け）：
<https://www.mochida.co.jp/believeucan/confirm03.html>をご覧ください。



保管方法

冷蔵保存

- ・本剤は外箱に入れたまま冷蔵庫（2～8℃）に保存してください。

室温保存

- ・冷蔵庫で保存できない場合、本剤は外箱に入れたまま室温（30℃以下）で2週間保存することができます。30℃を超えて**保存しない**でください。
- ・室温保存で2週間以内に使用しなかった場合は、本剤を廃棄してください。

- 本剤を**凍らせない**でください。
- 本剤は遮光保存する必要があるため、使用直前に外箱から取り出してください。
- 本剤を激しく**振らない**でください。

本剤は他の薬剤同様、子供の目に触れないところや手の届かないところに保管してください。

以下の場合**使用しない**でください（「**廃棄方法**」の項をご参照ください）。

- ・凍らせてしまった
- ・直射日光の当たるところに放置してしまった
- ・電子レンジで温めてしまった
- ・激しく振ってしまった
- ・お湯をかけてしまった

製造販売元

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通5丁目1番28号

販売



持田製薬株式会社

東京都新宿区四谷1丁目7番地

®：登録商標

Copyright © 2026, Eli Lilly and Company. All rights reserved.

作成年月：2026年4月

IT0570JJAI

取 扱 説 明 書



0570

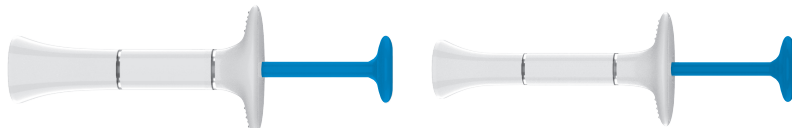
ヒト化抗ヒト IL-23p19 モノクローナル抗体製剤

オンボー® 皮下注 100mg/200mg シリンジ

ミリキスマブ（遺伝子組換え）注射液

Omvo® Subcutaneous Injection Syringes

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること



200mg

100mg



この取扱説明書には、オンボー皮下注100mgシリンジ及びオンボー皮下注200mgシリンジ（以下、本剤）の注射方法が記載されています。

本剤をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を最後までよく読み、その段階ごとのすべての指示に従ってください。

本剤を注射する前に、以下のことにご注意ください。

◆＜潰瘍性大腸炎の患者さんへ＞

- ・1回あたりの投与量（200mg）に、「200mgの注射器が1本」又は「100mgの注射器が2本」が必要です。
- ・100mgの注射器を使用する場合は、1本目の注射が終わったら、すぐに2本目の注射をしてください。



◇＜クローン病の患者さんへ＞

- ・1回あたりの投与量（300mg）に、200mgの注射器と100mgの注射器の2本の注射器が必要です。どちらの注射器を先に使用しても構いません。
- ・1本目の注射が終わったら、すぐに2本目の注射をしてください。



・医療従事者から正しい注射方法の訓練を受けるまでは、患者自身又はご家族による注射は**行わない**でください。

・必要な時にご覧いただけるよう、この取扱説明書は保管してください。

・本剤は、**1回使い切り**の注射器です。注射器を**再利用**したり、**他人と共用**したり**しない**でください。感染症の原因になるおそれがあります。

・注射器の一部にガラスが使われていますので、丁寧に扱ってください。硬い床や地面に落とした場合は**使用せず**、新しい注射器を使用してください。

・この取扱説明書の「**注射部位を決め、消毒する**」の項をよく読み、医療従事者にご相談のうえ、適切な注射部位を選んでください。

・本剤を目の不自由な方がご使用になる場合は、**必ず**操作方法の訓練を受けた方の手助けを受けてください。

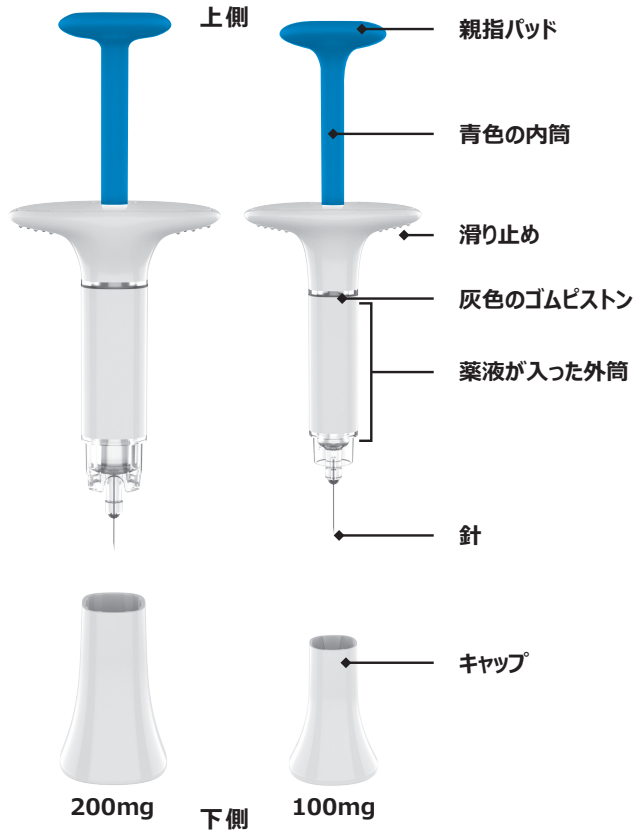
・保管に関する大切な注意については、「**保管方法**」の項をご参照ください。

ご使用方法

本剤をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を最後までよく読み、その段階ごとのすべての指示に従ってください。

各部の名称

200mgの注射器は100mgの注射器よりも大きいです。

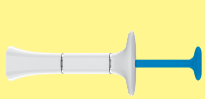


◆ <潰瘍性大腸炎の患者さんへ>

1回あたりの投与量（200mg）

200mgの注射器を使用する場合は1本、100mgの注射器を使用する場合は必ず2本を注射して、1回あたりの投与量（200mg）を投与してください。

200mg 1本



又は

100mg 2本



◇ <クローン病の患者さんへ>

1回あたりの投与量（300mg）＝ 2本の注射器

順番はどちらからでも構いませんが、200mgの注射器と100mgの注射器の両方を注射し、1回あたりの投与量（300mg）を投与してください。

200mgの注射器は100mgの注射器よりも大きいです。

200mg 1本



及び 100mg 1本



2本の注射器を使用する場合：

1本目の注射後、少なくとも5cmは離れた別の注射部位を選び、消毒してください。

1本目の注射の後すぐに、2本目の注射器を使用して「注射」の項の1～3の手順を繰り返してください。

1回あたりの投与量（200mg又は300mg）を投与するために、必ず2本の注射器を注射してください。

注射の準備

注射ごとに必要なものを揃える

- ・冷蔵庫から取り出した注射器（必要な投与量に応じた注射器）
 - ・消毒綿*
 - ・カット綿又はガーゼ*（注射完了後、注射部位にあてます。消毒綿で代用可能です。）
 - ・廃棄用の容器（ふたのできる、穴の開かない容器）
- *注射器の本数分用意してください。

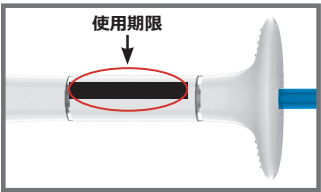
45分間待つ

キャップをつけたまま、注射の前に45分間かけて本剤を室温に戻してください。
電子レンジや熱湯、もしくは直射日光で本剤を温めないでください。

注射器と薬液を確認する

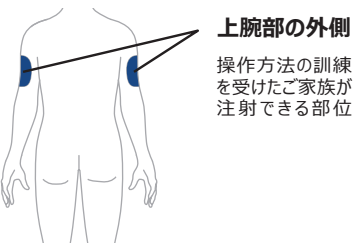
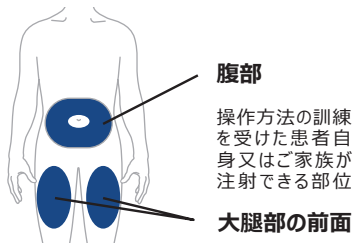
ラベルを見て、医療従事者から説明されているお薬の名前や用量と合っているか確認してください。
中に入っている薬液は無色透明か、わずかに黄色がっています。

- 次のような場合には、本剤を使用しないでください（「廃棄方法」の項をご参照ください）。
- ・本剤1本又は2本とも破損している。
 - ・薬液が濁っている、変色している、又は異物が混入している。
 - ・ラベルに記載された使用期限が切れている。
 - ・薬液が凍っている又は凍らせてしまった。



注射部位を決め、消毒する

医療従事者にご相談のうえ、適切な部位を選んでください。せっけんで手をよく洗ってから、注射部位を消毒綿で消毒し、乾かしてください。



皮膚に痛み、あざ、赤みがある部位や硬くなっている部位には注射しないでください。

- ・お腹（腹部）
少なくともへその周辺から5cmは離してください。
- ・太もも（大腿部）の前面
少なくとも膝から5cm上側かつ脚の付け根から5cm下側の範囲内で注射してください。

- ・上腕部の外側
操作方法の訓練を受けたご家族が注射してください。

2本の注射器を使用する場合：
2本の注射は注射部位を少なくとも5cmは離してください。

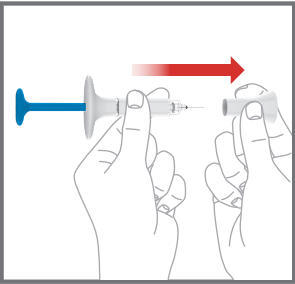
注射

1 1本目の注射器のキャップを取り外す
（2本注射する場合は、どちらの注射器から注射しても構いません）

注射の準備ができれば、注射器の中央部を持ち、注射する直前にキャップを取り外してください。キャップは捨ててください。

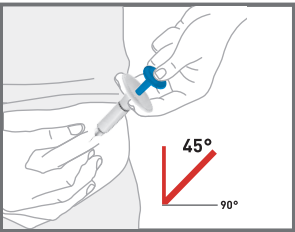
針が破損することがあるので、一度外したキャップは元に戻さないでください。

針に触らないでください。



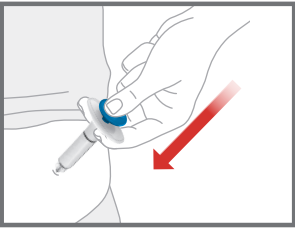
2 注射部位をつまみ、針をさす

注射する部位の皮膚をかるくつまんでください。
45°の角度で針をさしてください。
針をさした場所に固定したまま、つまんだ皮膚をゆっくりと離してください。

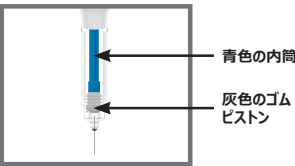


3 注射をする

薬液がすべて注射されるまで、親指パッドを押し、内筒をゆっくり押し込んでください。
灰色のゴムピストンが注射器本体の針の根元まで来るように押し込んでください。



注射が完了していれば、図のように青色の内筒が外筒から透けて見えます。
皮膚から針を抜いてください。
キャップは元に戻さないでください。



注射部位から出血した場合は、カット綿又はガーゼをあててください。
注射部位をもまないでください。

潰瘍性大腸炎の患者さんで200mgの注射器を1本のみ使用する場合は、以下の「4. 2本目の注射をする」の手順は必要ありません。

4 2本目の注射をする

- 1本目の注射後、少なくとも5cmは離れた別の注射部位を選び、消毒してください。
- 1本目の注射の後すぐに、2本目の注射器を使用して1～3の手順を繰り返してください。

1回あたりの投与量（200mg又は300mg）を投与するために、必ず2本の注射器を注射してください。